



June - July 2020

こ ん な 本



読 ん で み て

take free No. 83

目次

MIETAN 本つながぎ 第10回 1

Book design の世界 vol.13 8

ちょこちょこ日記 #23 12

MIETAN  
本つながぎ

第10回  
【特別編】

三重短生の  
おすすめ本をリレーして  
三重短を本でつなげたい！

「MIETAN 本つながぎ」。

このコーナーでは、三重短大の学生のみなさんに  
おすすめの本 や 大切な本 のお話を  
聞かせてもらっています。

今回は第10回を記念して、特別編をお届けします。



図書館ボランティア部  
イメージキャラクター  
ライブラリアン



三重短には図書館ボランティア部があります。図書館の飾り付けやコーナー作りなど、色々な場面で活躍してもらっています。

今回は、図書館ボランティア部のメンバーからおすすめの本を紹介してもらいました。それから、おうち時間の過ごし方についても教えてもらいました。

### ●五月さん●

#### 【おすすめの本】

『めがはーと』（横槍メンゴ 作 / 小学館）

この漫画は愛する人や大切な人に寿命の譲渡ができるようになった世界でのお話で、短編集となっています。「命を譲る」という重いテーマなのですが、どの人物にも共感できてページをめくる手が止まりませんでした。また、絵がとても可愛くて「このキャラ好きだな」「この表情好きだな」と思うシーンが多くあります。この作品に限らず、横槍メンゴさんの作品にはいたるところに可愛い散りばめられていて大好きです。

#### 【おうち時間の過ごし方】

気ままに料理をしています！私は面倒くさがりなので「この料理食べたいけど作るのが面倒くさい！」と思っていた料理をこれを機に作ります。親子丼、ローストビーフなどを作りました。時間があるので、親子丼にハート型、星型にした人参を入れてみたりして楽しかったです。初めてローストビーフを作ってみたのですが、大体の時間で調理をしたので火が通り過ぎて赤色の部分が2割ほどになってしまいました。ローストビーフを作ったというよりかたまり肉に火を通したという感じになりました。



読んでみてね！

### ●Reaさん●

#### 【おすすめの本】

『嫌われる勇氣 自己啓発の源流「アドラー」の教え』

（岸見 一郎・古賀史健 著 / ダイヤモンド社）★146.1||Ki 58

高校の図書館の先生におすすめしてもらった本です。毎日、新聞を読みながら図書館へ行っていたら先生に色々な本を紹介してもらって一番印象に残っているのがこの本です。

2人の対話形式で話が進んでいくため、読みやすくなっています。人間関係で悩んでいる人や、これからの人生を変えたいって思っている人に読んでもらいたい本です。

#### 【おうち時間の過ごし方】

お家での過ごし方は、普段バイトでネイルを出来ないんですが、コロナの影響でバイト先が休業中のため、色々なネイルに挑戦しています。また、家にいる時間が多く、時間を有効的に使うために、資格を取ろうと勉強しています。



photo by Rea

### ●あさこさん●

#### 【おすすめの本】

『ハイキュー！！』 既刊43巻（古舘春一 作 / 集英社）

中学生の頃にはまってからずっと好きな漫画です。純粋にバレーボールが好きで、勝利に貪欲な姿がかっこいいなと思うし、読んでいて熱くなれます。バレーボールは体育の授業ぐらいでしかしたことないけど、『ハイキュー！！』きっかけで、テレビ等でバレーボールの試合を見るようになりました。

#### 【おうち時間の過ごし方】

基本的に就職試験の勉強をしています。挑戦していることは特にありませんが、料理をしたいなと思っています。お休み中にチャレンジしたいです。

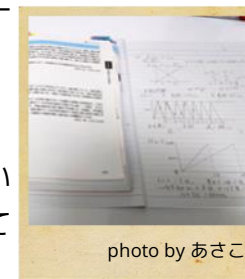


photo by あさこ



ここからは、「MIETAN 本つなぎ」総集編。  
2018年の第1回からこれまでに18人の三重  
短生に登場してもらいました。みなさんの  
おすすめの本を振り返ります。

これまでのバックナンバーは、図書館ホームページ([https://www.library.tsu-cc.ac.jp/?page\\_id=220](https://www.library.tsu-cc.ac.jp/?page_id=220))で公開しています。

★のついている本は、三重短図書館にあります。

●ページゅんさん●

『博士の愛した数式』

小川洋子著／新潮社

★913.6||O 24



第1回  
「こんな本読んでみて」No.71 2018年6月

●渚さん●

『星をさがして』

張間ミカ著／徳間書店

『うみまち鉄道運行記』

伊佐良紫築著／  
KADOKAWA・富士見書房

『楽園まで』

張間ミカ著／徳間書店

『ROUTER』

西村悠著／一二三書房



第2回  
「こんな本読んでみて」No.72 2018年8月

●こいとさん●

『フェリックスとゼルダ』

モーリス・グライツマン著  
／原田勝訳／  
あすなる書房

『優しい音楽』

瀬尾まいこ著／双葉社

★913.6||Se 76

●きょんきょんさん●

『夢をかなえるソウ2』

水野敬也著／飛鳥新社

『英雄の書 上・下』

宮部みゆき著／  
毎日新聞社

★913.6||Mi 71||1・2

『ヘヴン』

川上未映子著／講談社

『ぼくらの』

鬼頭莫宏著／小学館

●かりりりりんさん●

『きみはポラリス』

三浦しをん著／新潮社

★913.6||Mi 67

『ぞうくんのさんぽ』

なかのひろたかさく・え／  
なかのまさたかレタリング  
／福音館書店

★726.6||N 39

『海』

加古里子ぶん・え／  
福音館書店

★726.5||Ka 27



「こんな本読んでみて」No.73 2018年10月

●ととさまさん●

『十二国記』シリーズ

小野不由美著／新潮社



「こんな本読んでみて」No.74 2018年12月

●なかさん●

『カフカ小説全集 4』

『変身 ほか』

カフカ著／池内紀訳／  
白水社

★943||Ka 15||4



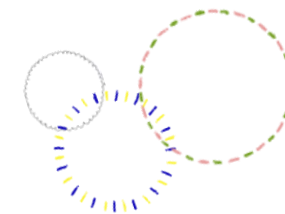
「こんな本読んでみて」No.75 2019年2月

●さいまなさん●

『告白』

湊かなえ著／双葉社

★913.6||Mi 39



●ゆいこさん●

『赤毛のアン』

L・M・モンゴメリ著／  
村岡花子訳／講談社

●ゆめさん●

『ヘタリア Axis Powers』

日丸屋秀和著／  
幻冬舎コミックス

『あるある吹ペディア』

オザワ部長著／  
学研プラス

●さくらさん●

『風のなかのマリア』

百田尚樹著 / 講談社

『置かれた場所で

咲きなさい』

渡辺和子著 / 幻冬舎

★198.24||W 46

『どんな時でも人は

笑顔になれる』

渡辺和子著 / PHP研究

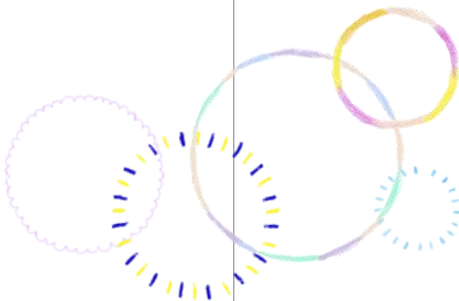


●はとむぎさん●

『片恋の日記少女』

中村明日美子著 /

白泉社



●さきこさん●

『とんび』

重松清著 / 角川書店



●あさこさん●

『図書館戦争』

有川浩著 / 角川書店

★913.6||A 71



●みたらしさん●

『名のないシシャ』

山田悠介著 / 角川書店



●ゆか子さん●

『ファンタズマゴリア』

岡崎祥久著 / 講談社

●ふじさん●

『文学少女インセイン

塔京異聞』

保坂歩著 / PHP研究所



●五月さん●

『たやすみなさい』

岡野大嗣著 /  
書肆侃侃房

★911.168||O 45



本とのすてきな出会いがありますように。

これからの「本つなぎ」、お楽しみに。



# Book design

## の世界

vol.13

寄藤 文平さん

本を選ぶ時、表紙や本のデザインに惹かれて選ぶことがあります。本を開くとそこに書いてある「装丁」という言葉と名前。

本のデザインをする方を装丁家やブックデザイナーと言います。この連載では本のデザインや装丁から、本を楽しみたいと思います。

よりふじ ぶんぺい

第13回目は、寄藤 文平さんです。

グラフィックデザイナーの寄藤文平さんは、1998年にヨリフジデザイン事務所、2000年に有限会社文平銀座を設立されました。広告やプロジェクトのアートディレクションやブックデザインを中心に活躍されています。著書に『元素生活』(化学同人)、『ラクガキ・マスター』(美術出版社)などがあります。



はじめに紹介するのは『地震イツモマニュアル』(地震イツモプロジェクト編/寄藤文平絵/ポプラ社/2016年/369.31||J 54)です。いつもの暮らしから防災を考える一冊。緑と黄を中心とした色使いで、いつも手元に置いて、気軽にめくれるようなデザインになっています。

『ミルク日記』(チーム・ミルクジャパン著/寄藤文平アートディレクション/ポプラ社

ブックデザイン: 寄藤文平・北谷彩夏(文平銀座)

/2017年/648.1||C 45)では、寄藤さんのかわいいイラストから、牛乳に親しみを感じられます。牛乳を一滴落とした時にできるミルククラウンを思わせるパターンが、カバーの下にうっすらと透けて見えます。



アートディレクション: 寄藤文平

【もともと本が好きですし、装丁が楽しいということもありますが、僕はブックデザインの中に、デザインというものの原理が詰まっているように思っています。いろいろな装丁を通じて、その原理について考えていきたいというのが、僕の中心線になっています。】と寄藤さんは著書『デザインの仕事』の中で、お話しされています。



デザイン:

寄藤文平+杉山健太郎 が違って見えます。

『もし文豪たちがカップ焼きそばの作り方を書いたら』(神田桂一・菊池良著/宝島社/2017年/913.7||Ka 51)では、他の装丁に比べるとタイトルが小さめの文字で配置されていて、インパクトのあるタイトルが一目で伝わります。見返しはクラフト紙。次の『ゴリラからの警告』でも、同じクラフト紙を使用していますが、紙の厚みと裏表の使い方が異なっているため印象

『ゴリラからの警告』(山極寿一著/毎日新聞出版/2018年/914.6||Y 23)。ゴリラの視点から人間社会を見つめ直す一冊。タイトルの「警告」という強い印象の言葉が、飾り文字によってポップになり、やわらかい表情のゴリラのイラストと合わさって、タイトルとデザインのギャップが印象的な装丁です。



装丁: 寄藤文平 + 吉田宏宏(文平銀座)

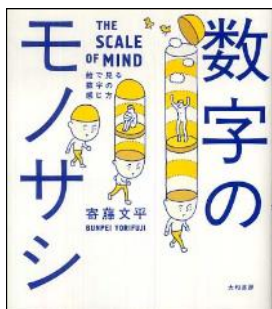
『片づけの解剖図鑑』(鈴木信弘著/エクスナレッジ/2013年/527.1||Su 96)は、散らかりにくい家の仕組みを建築設計の視点から解説した一冊。こちらでは、カバーと見返しにクラフト紙を使い、温かみとさりげないおしゃれさが感じられる装丁です。



デザイン:

寄藤文平・杉山健太郎 イラスト: 鴨井猛・鈴木洋子

【「いい本」と「売れる本」の両方を兼ね備えられるデザインは何か、といえば、やっぱりタイトルの大ききなんです。タイトルをでかくする。それだけだと思っています。僕がデザインに関わった本は店頭で目立つと言ってもらえることが多いのですけれど、それはきっとタイトルが大きい割合が多いからだと思うんです。(略)書体や文字のバランスや、あとは余白との関係性などによって、タイトルが大きいという前提で表現できる自由というのは十分にあって、だからこそそこに「いい本」と「売れる本」の接点があるのです。】と寄藤さんは言われています。続いて「タイトルが大きい」3冊を紹介します。

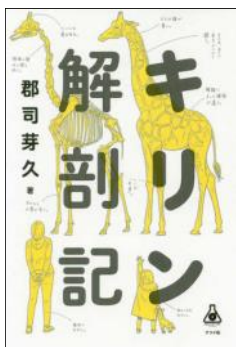


ブックデザイン：寄藤文平・北谷彩夏(文平銀座)

『数字のモノサシ』(寄藤文平著/大和書房/2008年/410.4||Y 84)は、数字のとらえ方を見つめ直すことができる寄藤さんの著書です。黄と青を中心とした色使いを、見返しの赤がひきしめています。本文には黄味がかかった色の用紙を使うことで、やさしい印象になり、数字が苦手な人にも手に取りやすい装丁になっています。

### 『みんなでつくる1本の辞書』

(飯田朝子文/寄藤文平絵/福音館書店/2015年/815.2||I 26)。電車や柔道の勝負や映画…そんな1本と数えるモノ・コトを集めた本書は、1本を集めていく楽しさ



イラスト：竹田嘉文  
デザイン：寄藤文平  
+古屋郁美(文平銀座)

にあふれたデザインになっていて、イラストの中のタイトルが目飛び込んできます。

### 『キリン解剖記』(郡司芽久著/

ナツメ社/2019年/489.87||G 94)は、普通の大学生がキリン博士になるまでをつづった一冊です。大きなタイトルの下に、現在とあのころの“わたし”がキリンを見上げているイラストが配置されています。著者の姿が身近に感じられるような装丁です。



デザイン：寄藤文平  
+吉田考宏+新垣裕子  
(文平銀座)



装丁：寄藤文平  
+新垣裕子(文平銀座)

『読み切り世界文学』(山本史郎著/大竹守絵/朝日新聞出版/2015年/902||Y 31)。真ん中に配置された「若きウェルテルの悩み」を描いた絵に感情が揺さぶられます。カバーにはギンガムチェック模様の用紙が使われており、世界文学のエッセンスを閉じ込めた本書の特別感が伝わってきます。

『働く理由』(戸田智弘著/ディスカヴァー・トゥエンティワン/2007年/366||To 17)は、人生の先輩の働くことについての名言が詰まった一冊。カバーに書かれた人生の先輩の名前はランダムに並んでいる印象なので、身構えずに手に取ることができる装丁です。



Book Designer：  
寄藤文平・鈴木千佳子



装丁：寄藤文平

### 『今日は誰にも愛されたかった』

(谷川俊太郎・岡野大嗣・木下龍也著/ナナロク社/2019年/911.56||Ta 88)。3人の連詩と感想戦からなる本書は、グレー地にタイトルと著者名、その上に金色の箔押しでイラストが重ねてあります。日々の生活にしみてくるような言葉の印象にぴったりと寄り添った、さりげないたたずまいの美しい装丁です。

【現在ある出版や本のあり方は変わるけれども、本は残っていくとして、では、ブックデザイナーは今、何をしたらよいのでしょうか。そう考えた時に、書店でどうやったら目立つかとか、デザインとして斬新であるかということって、たぶん意味を失うと思うんです。本ってどういうふうにあると良いだろうかという、根本的な問いかけが、日を追うごとに、自分の目の前に迫ってきているように感じます。それと同時に、そういう根本的な問いがあるということが、僕がブックデザインに取り組む理由でもあるんです。】

一冊一冊の本に向き合って、装丁という表現でできることを突き詰め手がけられている寄藤文平さんの装丁から、本にはまだまだ可能性があることを感じる事ができました。

参考・引用文献：『デザインの仕事』(寄藤文平著/講談社/2017年)

## ちよこちよこ日記 #23 「グラスの中の空」

『空色のクリームソーダRecipe』（tsunekawa著／ワニブックス／2019年／596.7||Ts 77）という本があります。その名の通り、クリームソーダのレシピ本なのですが、紹介されている色とりどりのクリームソーダがどれも本当に美しく見とれてしまいます。

クリームソーダ職人 tsunekawaさんのクリームソーダに憧れて、クリームソーダ作りに挑戦してみました！

グラスに青色のシロップ、氷を入れて、炭酸水をそっと注ぐと、グラスの中に青空が広がっていくようで、何とも言えない爽快感があります。その上に、バニラアイスとさくらんぼを乗せたら完成です。本当にきれいで、かわいくて、いつまでもながめていたくなります。もちろん味もおいしくて大満足です！

もっと上手に作れるように、この夏は、クリームソーダを極めてみたいと思います！



こんな本読んでみて No.83

2020年6月1日 発行

編集・発行 三重短期大学附属図書館

〒514-0112 三重県津市一身田中野157

<http://www.library.tsu-cc.ac.jp/>